

かん詰め用モモ新品種「錦」について

誌名	園芸試験場報告. A = Bulletin of the Horticultural Research Station. Series A
ISSN	0424995X
著者名	梶浦,実 金戸,橘夫 栗原,昭夫 吉田,雅夫 松田,好祐 佐藤,敬雄 原田,良平
発行元	農林省園芸試験場
巻/号	5号
巻号補足	
掲載ページ	p. 131-138
発行年月	1966年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



かん詰め用モモ新品种「錦」について

梶浦 実・金戸橋夫・栗原昭夫・吉田雅夫

松田好祐・佐藤敬雄†・原田良平††

I 緒 言

園芸試験場におけるかん詰め用モモ品種の改良は、1935 年興津において開始されたが、初期の目的はわが国の風土に適する栽培容易な品種、とくに炭そ病に強い品種を育成することにあった。この目的がほぼ達成されたものとして、1955 年に「缶桃 2 号 (モモ農林 1 号)」, 「缶桃 5 号 (モモ農林 2 号)」, 「缶桃 12 号 (モモ農林 3 号)」および「缶桃 14 号 (モモ農林 4 号)」が命名・公表された (北島, 1952; 森 1953; 梶浦, 1958)。その後さらにこれら品種より熟期の早い品種を育成する目的で品種改良が継続されたが、1964 年に至りここに掲げる「錦 (C-1-34)」が、その目的に達しうる将来有望な品種の一つとして命名・公表されたので、この機会に本品種の特性を紹介するものである。

なお、今回の公表に当たり、試験を担当された歴代職員、ならびに多大の協力を寄せられた研修生諸氏、および地方適応性試験の実施を担当された関係試験場の各位に心から謝意を表する次第である。

II 育成経過

「錦」は 1952 年、「缶桃 12 号」に「缶桃 2 号」を交配して得た交雑実生である。交配番号 C-1-34, 1953 年定植, 1956 年初結実, 1957 年に第一次選抜を行ない、下記の試験場所で特性検定試験および地方適応性試験を実施した。その結果、栽培性およびかん詰め製品の優秀なことが認められたので、1964 年 6 月「錦」と命名・公表した。

育成経過の概要は Fig. 1 に示すとおりである。

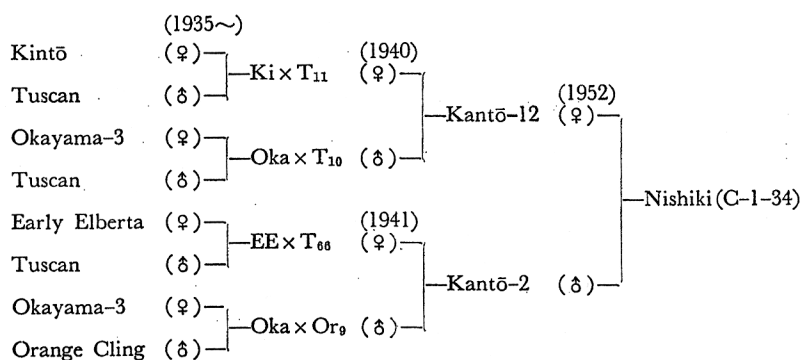


Fig. 1 Breeding process of Nishiki

なお、地方適応性試験を実施した試験場所は次のとおりである。

† 現 岡山県農業試験場技師

†† 現 福島県園芸試験場技師

岩手県園芸試験場	栃木県農業試験場・黒磯分場
宮城県農業試験場	千葉県農業試験場
秋田県果樹試験場	愛知県園芸試験場・豊田分場
山形県農業試験場・置賜分場	奈良県農業試験場・果樹試験地
福島県園芸試験場	兵庫県農業試験場・経営実験農場
新潟県園芸試験場	岡山県農業試験場・果樹分場
富山県農業試験場・魚津果樹分場	広島県農業試験場
長野県園芸試験場	島根県農事試験場・浜田分場
長野県農業試験場・下伊那分場	徳島県果樹試験場・上板分場
山梨県農業試験場・果樹分場	愛媛県果樹試験場

III 特性の概要

1 形態的特性

a 樹

樹勢はおう盛で、樹姿はやや直立性である。結果枝はやや長く、太さ中くらい、発生密度やや密である。複芽が多く、花芽の着生はきわめて良好、花は普通咲きで花粉は多い。

b 果 実

大きさは 130~150 g、円形で果頂はややへこむ。こうあ（梗窪）はやや狭く、深さ中くらい、ほう合線はやや明らかである。玉ぞろいは良く、片肉果は少ない。果皮の地色は黄色で、全面に紅はんを生ずる。果肉は黄色で、紅色素は肉内にはほとんどなく核周囲にわずかに生ずる。肉質は不溶性で、繊維は少ない。甘味は普通で酸味は多い。

c 核

粘核で大きさは小、円に近い短だ円形である。核割れはきわめて少ない。

2 加工特性

Table 1 のとおり、かん詰め製造の工程においては、果実の形状、大きさ、種子歩合（約 10%）、果肉歩どまり（約 83%）からかん詰め材料として適当である。また、核割れは最高 5.9% で「缶桃 2 号」に比較してはるかに少なく、ピーチピッターによる除核作業も容易である。

製品の品質は肉詰め時の赤肉率最高 4~5% であり、この程度では製かん後の紅色素による変色はほとんどない。ただし、成熟後樹に長くおきすぎると製品が暗色になる傾向がある。

製品の色調はとうおう（橙黄）色で美しく、暖地産のものほど、だいたい色が濃くなり、わせ種としては優秀である。食味はやや濃厚さに欠けるが、そう快な風味をもち、良好である。しかし、「缶桃 5 号」のような芳香はない。

3 栽培的特性

樹勢は強く、枝条の発生が多いうえに、花芽の着生、とくに複芽が多い。開花期は早く、平塚では 3 月下旬 ~4 月上旬で「缶桃 2 号」とほぼ同じく、「大久保」より 5~7 日早い。花粉は多く、自家

Table 1 Results of canning test at various growing districts in 1964

District	Fresh fruit					Canned product					Remarks						
	Variety	Number of fruit	Per cent of split-pit	Average wt. of fruit	Per cent of pit	Per cent of flesh	Refracto meter index	Titratable acidity (Malic acid)	Anthocyan	Color grade		Color difference meter reading					
												L	a	b			
山形県寒河江市 (Yamagata pref.)	Nishiki Kantō-2	152	0.7%	164 g	10.8%	— %	9.8	0.49 g		Non	Orange yellow	38.5	- 4.2	13.5	Good	Good	Results of Food Res. Inst., Shinjyō Branch
		161	0.6	165	12.4	—	10.0	0.74		Non	Reddish yellow	40.5	- 4.4	12.9	Good	Fairly	
福島県試 (Fukushima pref.)	Nishiki Kantō-2	258	0.8	150	8.4	—	9.6	0.89		Non	Yellow	52.9	10.0	23.9	Fairly	Good	Results of Fukushima Hort. Exp. Sta.
		201	56.2	234	7.5	—	7.2	0.75		Non	Deep yellow	54.6	14.2	24.9	Fairly~Good	Good	
園 試 (Kanagawa pref.)	Nishiki Kantō-2	136	5.9	113	10.1	84.3	8.0	0.45		Non	Brightly orange yellow (deep)	48.5	- 1.6	27.5	Good	"	"
		104	53.8	202	10.9	82.3	8.6	0.89		Non	Orange yellow (slightly light)	44.4	- 6.1	27.7	"	"	"
山梨農試・果樹分場 (Yamanashi pref.)	Nishiki Kantō-2	43	0	107	8.7	80.4	11.1	0.46		Non	Orange yellow (deep)	58.1	8.5	31.8	"	"	Results of Hort. Res. Sta., Okitsu Branch.
		34	67.6	150	8.3	86.6	9.1	0.55		Non	Yellow	60.0	9.6	33.0	"	"	
岡山農試・果樹分場 (Okayama pref.)	Nishiki Kantō-2	228	0	134	10.5	87.5	—	—		Non	Orange yellow (deep)	49.2	7.0	30.1	"	"	Results of Okayama Agr. Exp. Sta.
		143	70.6	219	12.0	81.7	—	—		Non	Orange yellow (deep)	53.5	3.5	32.9	Fairly	"	

結実性が高い。また生理的落果も少なく、豊産性で、わせ種であるが「缶桃 12 号」と同程度の収量が望める。無袋栽培を行なっても果肉内の紅色素発現は少なく、品質良好で栽培容易な品種である。収穫期は「大久保」とほぼ同時期で、「缶桃 2 号」より 7~10 日早く、かん詰め用モモとしては早熟である。各地における収穫期は Table 2 に示すとおりである。

Table 2 Ripening time of Nishiki at various growing districts
(Average of four seasons, 1961~'64)

District	Variety		
	Nishiki	Kantō-2	Ōkubo
福島園試 (Fukushima)	July 31~Aug. 14	Aug. 12~Aug. 26	Aug. 7~Aug. 15
園 試 (Kanagawa)	July 19~July 29	July 31~Aug. 6	July 22~July 30
山梨農試・果樹分場 (Yamanashi)	July 19~July 26	July 30~Aug. 6	July 23~July 30
岡山農試・果樹分場 (Okayama)	July 23~Aug. 1	July 29~Aug. 3	July 24~Aug. 2

病虫害についてみると、炭そ病は「缶桃 12 号」と同様、果実、樹とも著しい発生を認めていない。果実に対する吸収ガヤシンクイムシの被害はわせ種であるため少ない。

IV 将 来 性

かん詰め製品の品質はよく、樹勢が強いうえに生理的落果や病虫害の被害が少ないので、栽培地域はかなり広いものとみられる。とくに、熟期の早い点で無袋栽培が可能であり、また、「缶桃 2 号」より前に収穫しうることから、栽培面では、収穫労力の調節、栽培規模の拡大に役立ち、加工面では、加工工場操業期間の延長に役だつものと期待される。

V 摘 要

1 園芸試験場におけるかん詰め用モモ品種の改良は 1935 年に開始され、1955 年に 4 品種を公表した。さらに、これらの品種より熟期の早い「錦」を 1964 年に公表した。

2 「錦 (C-1-34)」は 1952 年、「缶桃 12 号」に「缶桃 2 号」を交配して得た交雑実生で、収穫期は 7 月中~下旬で「缶桃 2 号」より 7~10 日早い。果実は 150 g 内外でかん詰め製品の品質も良好である。栽培は容易で、病虫害の被害少なく、収量も多いので。栽培適地はかなり広い。

3 「錦」は従来の品種のいずれよりも熟期が早いので、経営規模の拡大や収穫労力の調節を容易にし、他方、加工工場の操業期間の延長に役だつものとみられる。

引 用 文 献

- 1) 梶浦 実 (1958). 缶桃育種の経過について 育学雑 7, 201-207.
- 2) 北島 博 (1952). 桃の炭疽病に関する研究 東海近畿農試研報 園芸 1, 72-104.
- 3) 森 英男 (1953). 落葉果樹 (桃, 日本梨, 柿) の主要形質の遺伝に関する研究. 農技研報 E 2, 1-33.

New Canning Peach Variety "Nishiki"

Minoru KAJIURA, Kitsuo KANATO, Akio KURIHARA, Masao YOSHIDA,
Kōyū MATSUDA, Takao SATŌ, and Ryōhei HARADA

Summary

- 1 Canning peach breeding program in the Government Horticultural Experiment Station began in 1935. Then, four good varieties which were relatively resistant to anthracnose (*Gloeosporium laeticolor* Berks) and easy to grow under the condition of heavy precipitation, were bred out and introduced commercially in 1955. But they are late varieties and their growing area is limited. Therefore, with continuous effort to breed earlier varieties, we succeeded in obtaining a promising new variety.
- 2 The new variety resulted from Kantō-12 [(Kintō×Tuscan)×(Okayama-3×Tuscan)] × Kantō-2 [(Early Elberta×Tuscan) × (Okayama-3×Orange Cling)], crossed in 1952, selected in 1957, tested as C-1-34 at twenty experiment stations in peach growing districts of Japan from 1957 to 1963. It was named "Nishiki" and was registered at the Ministry of Agriculture and Forestry of Japan in 1964.
- 3 Tree : Slightly upright, vigorous, flower bud sets heavily, self-fruitful, flower showy, blooms in early April, 5 to 7 days earlier than Ōkubo, few June-drop, productive.
- 4 Fruit : Weight about 150 g, round, uniformity, skin highly blushed with reasonably good color, flesh clear yellow, few red in flesh and around pit; when canned, good canning quality, appears to process satisfactorily, ripens in middle to late July, about with Ōkubo, 7 to 10 days before Kantō-2, one of the earliest varieties.
- 5 "Nishiki" has good characteristics which are easy to grow, early ripening, good canning quality, relatively tolerant to diseases and insects. Therefore, it is expected to be widely planted in peach growing districts of Japan.

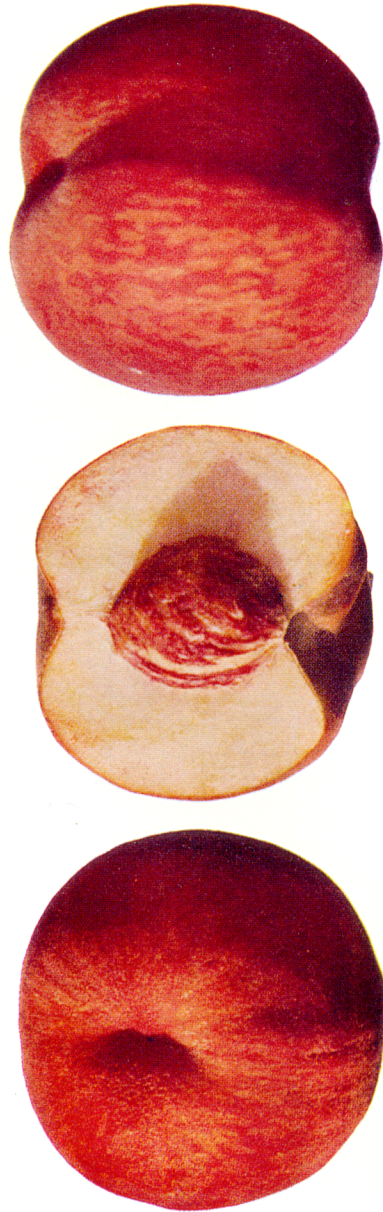


Fig. 2 Fruits of "Nishiki"



Fig. 3 Nishiki original tree (13 years old)



Fig. 4 Branches bearing fruits Nishiki (50 days after full bloom)